

夢 いっぱい

このまちで “描く”

描



「市外の人からも“行ってみたい”と思われる
図書館があるって、素敵だと思いませんか？」

「毎日がとても楽しいです。」就任から一か月、笑顔でそう話してくれるのは、4月から中央図書館の館長を務める津田恵子さんです。津田館長は元北九州市役所職員。一般行政職を経て平成11年～18年までの7年間、学生の頃からの夢であった図書館勤務を経験されました。その後、家庭の事情から一度は職を退かれますが、「もう一度、図書館で働きたい」との思いは諦めきれません。『図書館が大好き。』仕事を離れて一年、“もう一度”の想いはだんだん強くなるばかり……。そんな時、偶然知ったのが、本市の図書館長民間公募。再び夢を志す決心を固めるまでに、それほど時間はかかりませんでした。

図書館の果たすべき役割についてお伺いしたところ、「利用者が求める資料をできるだけ早く、確実に提供することに尽きるのでは」と明快に言い切る津田館長。そして

「利用者のリクエストに応えるだけでなく、“図書館から市民へ”の働き掛けを今以上にしていき、“地域の情報センター”として市民に親しまれる施設にしていきたい。」と抱負を語る彼女の視線の先には、理想の図書館像がしっかりと描かれているようです。フィンランドでの研修視察などを通じて培ってきた豊富な知識や経験、そして誰にも負けない“図書館への情熱”が、強い信念を支える大きな力となっていくことでしょう。

「今までの行政経験、図書館経験の集大成となる場を得ることができました。山陽小野田市から、“ほんものの図書館とは何か？”を発信していきたいですね。」曇らぬ笑顔の下に描かれた理想の図書館像。“中央図書館発～利用者行き”便は、どうやらその本数を大幅に増やしていきそうです。

津田 恵子さん

昨年の3月に北九州市役所を退職後、今年1月に本市が行った“図書館長の民間公募”により、中央図書館長に採用される。西日本図書館学会会員および図書館問題研究会会員の肩書きを持つ。北九州市出身。

『図書館が大好きなんです』～中央図書館長就任～

津田図書館長就任によせて



「図書館」は、「知の灯台」とも言われる、知と文化の道しるべです。そのリーダーとして、専門的な知識や考え方を持った人材の登用が、本市の描く夢と重なり、今回の公募となりました。津田館長を迎えての一か月、話をすればするほど、素晴らしい方を館長としてお迎えすることができたと感じています。

市民のみなさん、図書館がますます面白くなりそうですよ。

山陽小野田市教育委員会 教育長 江澤正思



▲ズラリと本が並び中央図書館の開放書架。ページをめくる一冊の本に、あなただけの素敵な世界が広がっています。